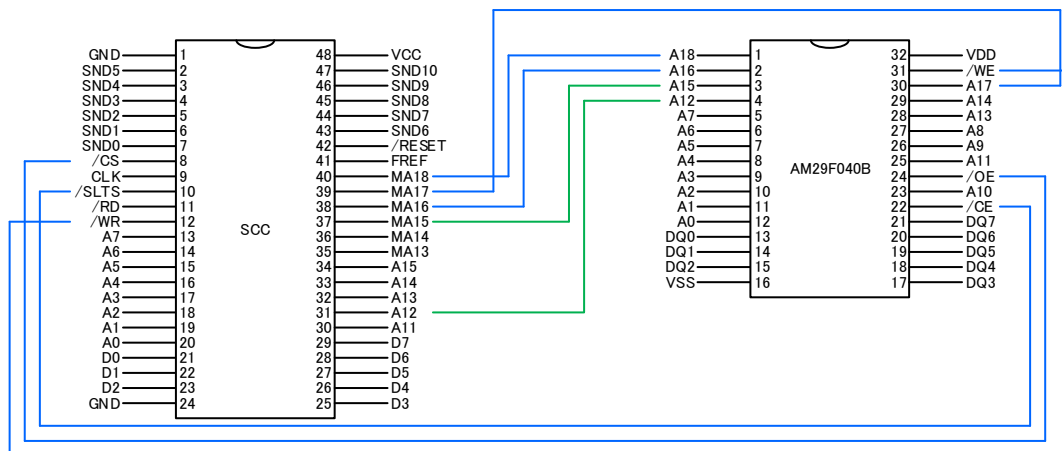
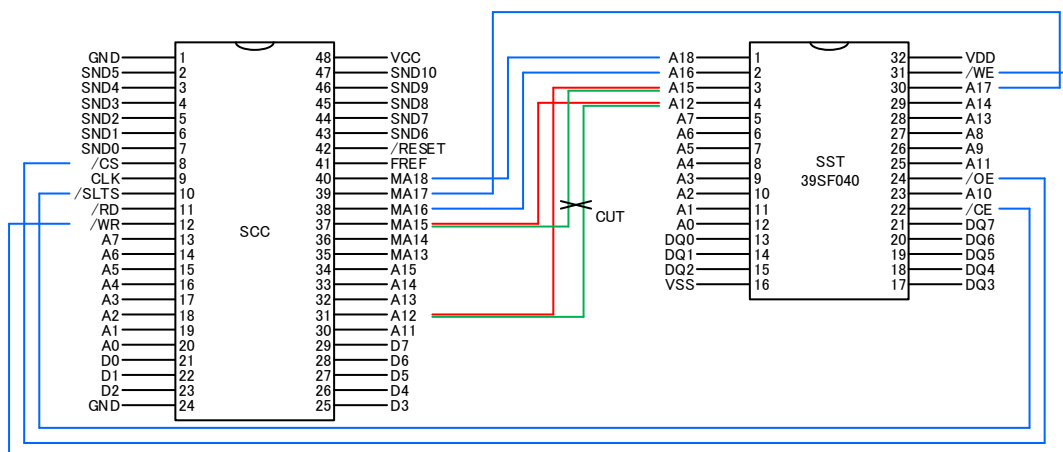


似非SCC AM29F040B Ver. [参考資料]



激突ペナントレースのカートリッジから、ROM IC を取り除き、AM29F040B をその ROM IC が付いていた場所に取り付ける。
足の数が異なるので、具体的な位置については後述。
AM29F040B の青い線が繋がっている足を伸ばして、それ以外は基板に半田付けする。
伸ばした足は、2mm程度まで短くカットして配線を取り付ける。
配線の方方を、左図に従ってSCCの足に半田付けする。

似非SCC SST39F040 Ver.



SST版も、基本的に AMD版と同様であるが、
SCC - SST
MA15 - A15
A12 - A12
の接続を、下記のように変更する必要がある。
SCC - SST
MA15 - A12
A12 - A15

基板側を加工しなくても、SST39F040 の A12, A15 を他と同様に伸ばして短くカットして、SCCの MA15, A12 に配線すれば良い。

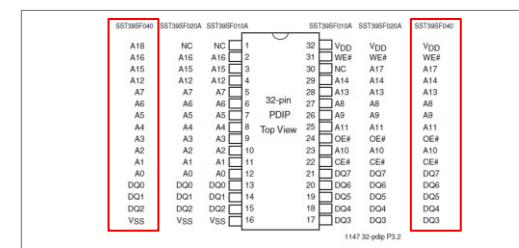
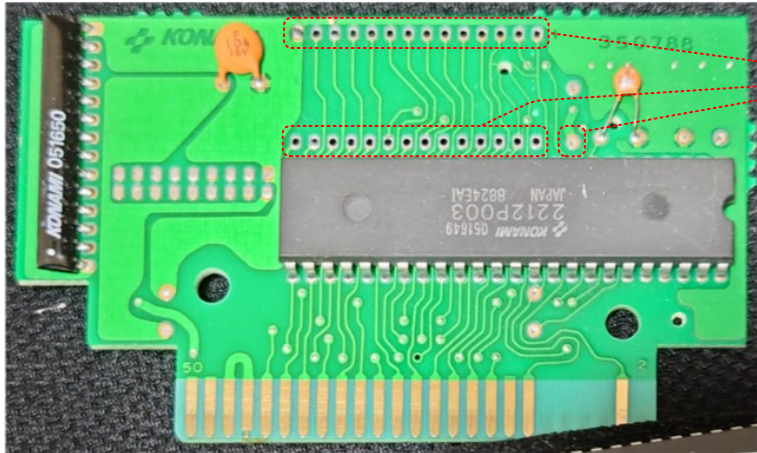
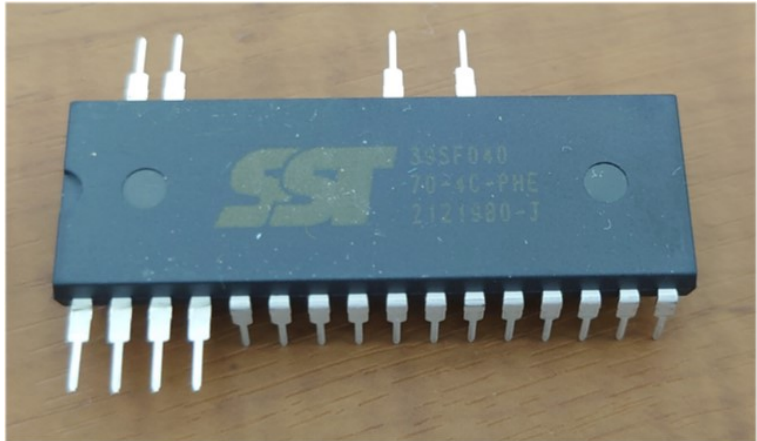


Figure 4: Pin Assignments for 32-pin PDIP

似非SCC SST Ver.



ここの半田をしっかり除去しておく。



SST39SF040 の足(1,2,3,4,22,24,30,31番ピン)を伸ばす。伸ばした足の細い部分をカット。

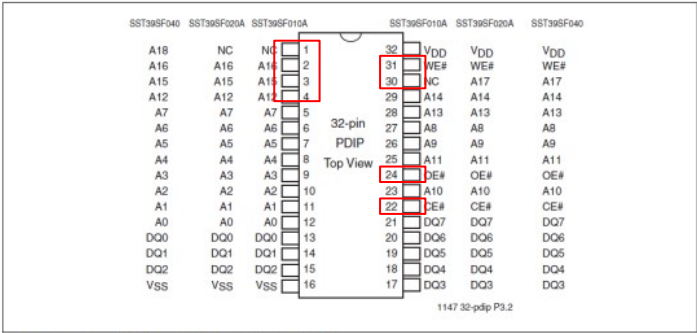
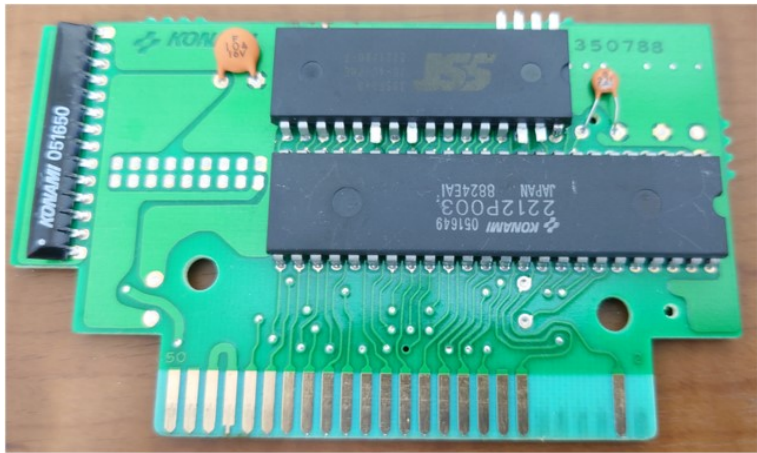
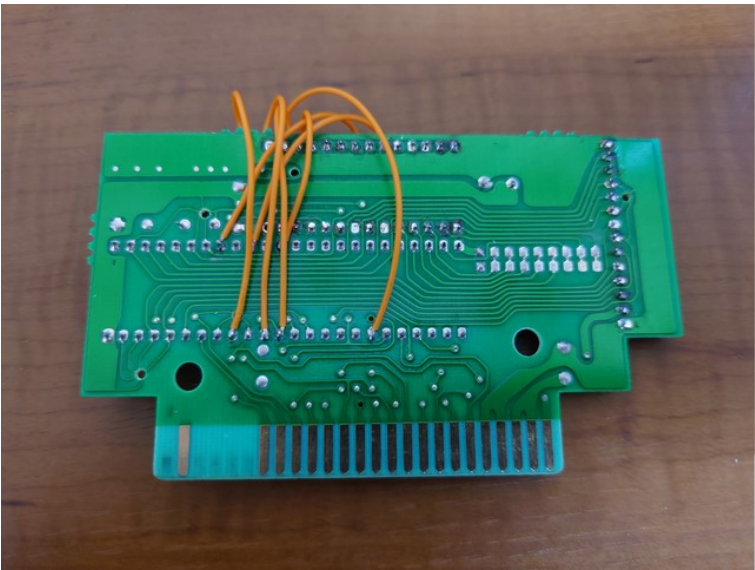
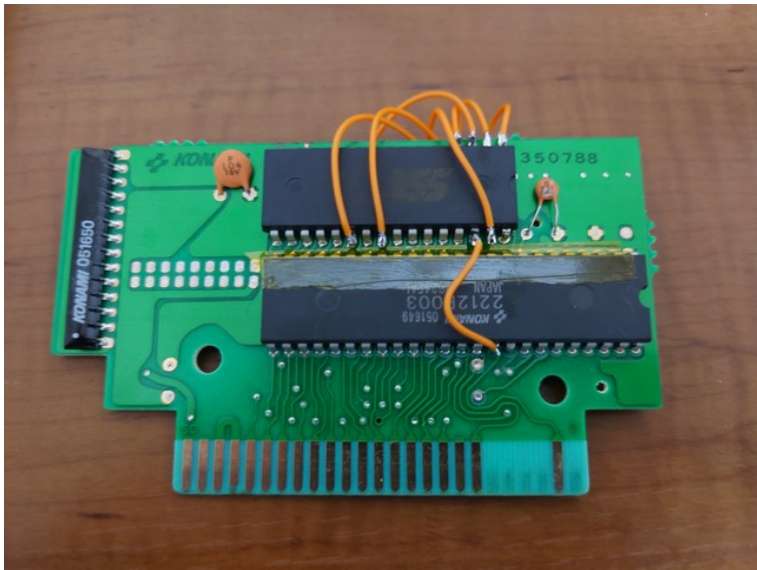


Figure 4: Pin Assignments for 32-pin PDIP



SST39SF040 を左の写真の向き・位置で取り付け、半田付けする。



配線を取り付ける。

写真は、SCCと伸ばしたROMの足がショートしないように、念のためポリミドテープを貼った。

配線は、被服を 1mm 程度剥いた後、接続先に半田を盛って、それを溶かしながら剥いた配線を差し込む感じでやると簡単。被服は剥きすぎると、隣接端子に触れたりする危険もあるので注意。

隣接する端子同士が半田や配線によって繋がっていないか、念入りに確認してから本体に装着して下さい。間違った配線をした状態で本体に装着・電源ONすると、最悪の場合はこのカートリッジだけでなく本体を壊します。

この改造を真似したことによって、何らかの損害を被ったとしても、筆者は一切責任を負いません。実施は、各自の責任において行って下さい。

